

平成 30 年度 第 2 回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 平成 30 年 11 月 20 日 (火)
10 : 00 ~ 12 : 10
場 所 志摩市役所 6 階 602・603 会議室

出席者 (順不同・敬称略)

- (1) 審議会委員 (13 名)
柴原行正、内田清隆、岩崎恭彦 (会長)、齋藤平 (副会長)、舟戸由美、畑野悦哉、尾間正美、米澤尚之、東川清加、橋本征郎、長濱彰則、井上摩紀、濱口朝洋
- (2) 志摩市長 竹内千尋
- (3) 事務局 (5 名)
三橋哲雄、澤村博也、東桂一、北山亥之生、米奥宏規

傍聴者…8 名

事項書 1. あいさつ

【竹内市長】

本日はお忙しい中、本年度第 2 回目の審議会にお集まりいただき誠にありがとうございます。

また日頃は、各分野においてご尽力・ご協力いただいていることに関しましても改めてお礼申し上げます。

さて、日本全体の総人口が減少している中で、社人研が 2040 年の人口予測を出し、消滅可能性都市が公表され、各自治体も対応すべく動いています。ここにきて総務省がまとめた人口推計では、2040 年度は下振れをしているとのことであります。総務省でもこれに対応した戦略を考えていくことをホームページで示されています。志摩市の総合戦略によって地方創生をしっかりと進めていくことが大事な課題であります。

6 月には SDG s 未来都市に全国 29 都市の 1 つとして選定をされました。持続可能なまちづくりについて具体策を出していくと国からも支援が受けられる状況にもあります。皆様方におかれましては、より具体的かつ実効性のある議論を通じて、お示しいただければと思います。今回から新しく加わった方もみえるとのことで、今年度から来年度に向かって見直し等も含めてしっかりご検討いただければありがたく思います。

事項書 2. 委嘱状の交付

[市長から新規の委員に交付]

[市長退席]

【事務局】

委員 18 名中 12 名 (1 名が途中から出席) の出席により会議が成立していることを報告。(志摩市地方創生審議会条例第 5 条第 3 項)

事項書 3. 自己紹介

[各委員及び事務局の自己紹介]

事項書 4. 会長・副会長の選任

【事務局】

志摩市地方創生審議会条例第4条第1項の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定める旨説明。

[事務局一任を確認]

会長に岩崎恭彦委員、副会長に齋藤平委員を提案

[異議なし]

[岩崎恭彦委員、齋藤平委員 座席移動]

志摩市地方創生審議会条例第5条第2項の規定に基づき、議事進行を岩崎恭彦会長に依頼。

事項書 5. 議事（1）審議会の役割について

【岩崎会長】

ただ今会長に選任いただきました三重大学の岩崎です。齋藤副会長にサポートいただきながら議事を進めていきたい。

[事務局説明]

【岩崎会長】

ただ今審議会の役割について事務局から説明があった。審議会は条例に基づき設置・運営され、役割が与えられている。この項目については議論の余地はないところではあるが意見等はないか。

【濱口委員】

公募委員について、前は5名であったのに対し今回3名であるのはなぜか。

【事務局】

人数については5名の範囲内となっている。9月に広報しまやホームページを通じて公募を行った結果3名ということになった。

【岩崎会長】

この点について了解をいただいたということによろしいか。

事項書 5. 議事（2）平成30年度事業計画及び進捗について

事務局からの説明を求めます。

[事務局説明（ひとの育成、ひとの確保、まちの発見）]

【岩崎会長】

発言については、少し整理をさせていただきたい。審議会の役割について大きく分けて2つと考

えている。1つ目は、今の計画がうまく進んでいるかどうかを皆さんの視点からチェックいただく。2つ目は、今の計画にはないような事業を含めて新しい提案をいただく。

現在の議題は1つ目の役割だと思う。9月末の段階での進捗状況について事務局から説明があったので、進め方や進み具合について意見をいただきたい。また、その他の事項で役割の2つ目として発言をいただければと思う。

【長濱委員】

「1-3 がんばる市民を応援する事業」について

現在志摩市が、どういうところに人の育成をしていくかについて明確に具体化する必要がある。市民病院を含めて、医者が足りない状況となっている。また、看護師や介護士の人数も少ない状況である。

獣害対策についても進んでいないように感じている。猟師の育成の必要性も感じている。

【岩崎会長】

担当課でないと回答が難しい意見である。事務局から担当する課へ伝えていただきたい。

【長濱委員】

「2-7 家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業」について

1人200万円とせず、予算を広く薄く多くの人に使っていただいたらどうか。

【事務局】

リノベーションについては工事費の2/3で上限200万円、リフォームについては工事費の1/2で上限20万円となっている。担当課の見解としては、利用者の声として、近隣市町が100万円であるためより有利な志摩市を選んだとのことである。こういった部分も含めた分析が必要であると思う。

【岩崎会長】

意見を踏まえて、適切に効果測定もしながらさらに検討いただきたい。

【長濱委員】

「3-2 きらり志摩びと紹介事業」について

予算がかなり多いが、有効に機能していないのではないかと。バレーボールの山口舞選手などきらりと光る人材もいると思う。他の事業との統合もできるのではないかと。

【事務局】

予算額については、広報事業に係る事業費となっている。この事業の紹介コーナー分を抜き出したものとはなっていない。今年度、広報紙に係る事業とケーブルテレビに係る事業とを統合した。他の事業との統合につきましては意見として受け止めさせていただきたい。

【長濱委員】

「3-5 志摩市の食材を活かした食育推進事業」について

伊勢市では、お米で地元産100%を達成したと聞いている。志摩市も一次産業を活性化させるため

に、できる限り地元産 100%を目指した給食の実施についてはどうか。

【岩崎会長】

担当する課へ伝えていただく方が適切な発言である。他の委員の皆さんはどうか。

【東川委員】

「2-1 若者の希望を叶える志摩づくり事業」について

配布資料の「SHIMA SWITCH」について説明があったが、配布先はどういった場所か。

【事務局】

配布先については、市の公共施設や、ワークショップメンバーによる美容室やカフェなどの若者が集まりそうな場所に配布している。市のホームページへもPDF版で閲覧できるように対応している。

【東川委員】

人の目につく場所に配布されてこそ発行した意味があると思う。例えば、審議会委員でもある銀行の窓口などにも、ラミネート加工したものを設置するなど手に取って見やすくする工夫などが必要である。若い人たちが作ったものは対象が若い人たちだけではないと思う。こういった取り組みをたくさんの人に知らせる機会があるといいと思う。若い人の目線でビジュアル的に見せていることはいいと思うので、年齢層の高い人に対してこの取り組みに関心を持ってもらうことも地方創生として意味が出てくると思う。

【岩崎会長】

重要な提案であると思うので、銀行の皆さんにも協力していただきながら進めていただければと思う。

[事務局説明（しごとの強化、しごとの創出、まちの形成）]

【岩崎会長】

9月末現在での事業の進め方や進み具合についてチェックをしていただき意見をいただければと思う。

【長濱委員】

「4-1 ふるさと応援寄附推進事業」について

志摩市の財源にとって非常に重要であると思う。昨年度と今年度の金額の推移はどうか。さらに、多くの人が寄附していただけるように、プロジェクトチームを立ち上げてみてはどうか。

【事務局】

ふるさと応援寄附の実状について、28年度は約7億8千万円であった。29年度は約3億6千万円で半減している状況であり、今年10月末で2千5百万円程度となっている。総務省からの通知が29年4月にあり、その通知の中で返礼品割合3割以内や高額・宝飾品に係るものは駄目であるといっ

た内容であった。志摩市においては真珠が該当するとのことで、国に対して地場産品であることなど申し出をしたが、認められないとの回答であった。昨年11月末に真珠を取りやめた結果が29年度の実績に影響している。プロジェクトに関しては、全庁的な中で進めている。以前に事業者の公募をかけたが、応募される方は少なかった。現在、市側から事業者にアプローチして品目を増やす取り組みをしている。

【長濱委員】

「4-4 外国人観光客誘致推進事業」について

予算額と取り組み状況の金額とに開きがあるが具体的にどうか。

【事務局】

説明した内容については補助金についてであるが、資料の予算上は他に誘致推進事業に係る部分も含まれている。内容については、台湾・韓国等へのセールスや、タイ・ベトナム等の商談会への出展をしているとのことである。これらの委託料も含めた予算額となるが、決算が出た時点で実績報告にてお示しすることとなり、詳細な内容を報告できると思う。

【長濱委員】

「5-2 鵜方駅周辺の賑わい復活事業」について

私は志摩町在住であるので、「まちの形成」の中で和具美珠通りの活性化に取り組んでいるかと思うが、各町々の商店街であった場所が寂れてきているように思う。各町々でこのような事業を進めることについてどうか。

「5-4 高齢者と障がい者とその家族等のための観光サービス創出事業」について

以前から位置付けがされていた事業であるが、具体的な動きが見えてこない事業であると思う。もう少し具体的に制度を作りこんでさらに強く踏み込んでみたらどうか。

【事務局】

例えば1-6の事業の中に職員ワークショップと市民ワークショップがあるが、後者では大王町波切地区のメンバーが中心となって地域の活性化策の検討をしている。委員からのご指摘もあった6-4の事業についても志摩町和具地区のメンバー12名が活性化についてワークショップを開催している。5-2とは事業は異なるが、思いとしては同じ方向に向いているものと考えられる。

5-4については、今年度から観光商工課で実施をしている。今年度に具体的な実施を開始しているので、問題点が見えてくると思う。実績等を踏まえて見直すべき部分は見直すなど検討をしていくべきと思う。今回の意見は委員からの提言として担当課に伝えたい。

【長濱委員】

5-4については思い違いであった。

「5-5 6次産業化推進事業」について

水産課が三重大学としっかりと連携しているように感じられる。海洋マイクロプラスチックが問題になっている。ユーグレナをたくさん培養することでバイオエタノールやジェット燃料、生分解性のバイオプラスチックなどができるなど、横浜に企業ができてかなり取り組んできている。志摩市でもこういった事業を大学と連携してやっていくことについてはどうか。

【事務局】

この6次産業化事業に直接的には結び付きにくい事業ではあるが、貴重な提案であると思うので担当課に情報提供したい。

【長濱委員】

ユーグレナは、栄養面でもいい作用があると聞いている。

【尾間委員】

「5-1 志摩市を元気にする創業支援事業」について

前年度は使い勝手が良すぎて応募が殺到し、予算を使い切ってしまった。金額も大きくて県内でも注目されていた補助金だった。この状況を踏まえての見直しがなされ、逆に厳しくなってしまった。補助金が決定するまでの創業ができなかったりすることがそうであるが、補助金ありきで創業する人はいない。例えば、三重県信用保証協会でも創業ということに関しての括りは、この事業に比べて緩く、創業後5年以内であればそれとみなしている。以前の補助金があればもっとのびのびと仕事のできたのではないかと思う。実績を見てみると1事業者のみにとどまっている。担当者の話を聞くと、税金が原資となっているのできちりとした制度を組んだのだと思うが創業には旬がある。クラウドファンディングについても同様である。制度も良く、注目度も高い事業であるが惜しいというのが率直な感想である。見直しについては聞いているが、金融機関や創業された方の話を聞いていただき使い勝手が良く、公平に行きわたるような制度を考えていただきたい。

【岩崎会長】

審議会としても強い見直しの要望があったことを担当課に伝えていただきたい。

【尾間委員】

担当課において見直す意向を聞いているが、あえてこの場で発言させていただいた。

【濱口委員】

「6-3 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業」について

年間通じて、ハーフマラソンなどの道路を使用した各種イベントを開催しているが、市道や県道の歩道整備計画については、「6-6 これからの志摩市の地域交通検討事業」の地域公共交通網形成計画案の中に盛り込まれているのか。

【事務局】

ご指摘の6-6については、道路整備に関しては謳っておらず、バスなどのいわゆる公共交通機関についての計画となっている。道路整備については、自治会要望等も踏まえて優先順位をつけて計画していると聞いている。要望があれば、担当課に繋がせていただきたい。

【橋本委員】

まず、資料の文字を大きくしてほしい。また、自治会の仕事をさせていただいている立場から申し上げるが、素晴らしい事業がたくさんあるこの総合戦略を住民の皆さんに理解されていない部分

があると思うので、理解してもらうための工夫が必要であると感じる。

「6-6 これからの志摩市の地域交通検討事業」について

買い物や病院に行けない限界集落に近いような集落が出てきている。磯部地区についてはハッスル号等が運行しているが、充実した買い物支援などが必要と感じている。可能かどうかはわからないが、例えばスクールバスを使用していない時間帯に活用できないか検討してほしい。自治会の会合をするとこの問題が常に出てくる。

「6-1 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業」について

観光施設の前に大規模な太陽光発電の建設計画がある。太陽光発電自体に反対の立場ではない。しかし、遊休地への設置であればよいと思うが、海のそばの森を切り拓いての設置は疑問を感じている。漁業や農業を守る施策を市が掲げながら対応に少し矛盾を感じる。環境悪化は死活問題となるので整理が必要であると思う。市が条例も作っているが手遅れ感がある。

【岩崎会長】

地方創生の取組を広く知っていただくことについては、審議会で毎回のように出てくる意見である。重要性は強く認識しているので引き続き取り組んでいただきたい。

【事務局】

スクールバスの件については、市内でも教育委員会や福祉担当部局も含めて話し合いはしている。以前にその活用について話を出したことがあったが、常時活用できるのかという部分と、(他の用途で使用中に)何かあった場合に子どもたちが利用できないと学校としても困るなどの課題があった。定期的な活用ではなく、単発での活用の可能性はあると思う。今回の検討の中で含めて検討したい。

市として環境や景観の保全について取り組んでいる中で、太陽光発電の問題が出てきて条例の整備を行った。大規模なものについては抑制していくものとなっており、行政としてできる範囲で取り組んでいる。環境課の方に意見を伝えたい。

事項書5. 議事(3) その他

【岩崎会長】

会議の残り時間もわずかとなってきているので、次の事項に移りたい。新規の委員もいらっしゃるので一人ずつから発言いただければと思う。その中で事業計画に関する意見をいただいても結構である。新しい提案や本日の感想などでも結構である。時間の関係上一言二言となってしまうところは大変心苦しいがよろしくお願ひしたい。

【濱口委員】

「6-1 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業」と並行してくると思うが、1985年のフランス発祥の環境認証であるブルーフラッグ事業である。クリーン活動に対するキャンペーンなど環境活動に取り組んでいる中で、外国人観光客も取り込んでいくためには大事になってくる認証であると思う。次回にまとめて提案したい。

【井上委員】

「6-7 子どもの医療費がかからないまちづくり事業」の9月からの窓口負担がなくなったことはと

てもありがたいが、未就学児に限られている。窓口負担の大きい歯科医院への通院に関して、永久歯への生え変わりは就学後の小学校1・2年生となる。窓口無料化の年齢の引き上げをお願いしたい。

【長濱委員】

まだまだ話をしたいことがある。もう少し時間を取ってほしい。高校・大学世代の人口が大きく減っている。大学との提携よりも独自に大学を自作していくなどの学園都市構想を提案したい。サミット開催地どうしの交流などサミットを活かした取り組みを提案したい。空き家・空き地・空き店舗・空き田畑・空き港などをホームページ等で示していくと移住者も増えるのではと思う。

【橋本委員】

必要なのは若い人の働く場所の確保であると思う。公共用地や建物がたくさん空いてきているが、活用方法案を自治会に出させるというようなやり方ではなく、市の施策として思い切ったことをやるべきである。大きな企業の誘致でなくても、例えば少人数でもいいので空き校舍を活用したものや、固定資産税の減免など他地域にない優遇制度を設けて募集するなども1つである。

【東川委員】

市民レベルで見ると地方創生の事業に興味を持っていない人もいる。興味を持ってもらえるようにしていくことも地方創生につながっていくと思う。志摩市民の地元愛は他地域より強いと感じている。「6-3 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業」のスポーツイベントは観光客のみの参加の事業ではない。予算の都合もあると思うが優待などで市民にも参加しやすくする等の工夫が必要。そこに市民を参加させることで志摩の良さや市の取組みを再認識するきっかけとなると思う。

【米澤委員】

人口減少を食い止めるには地元での就労促進が有効である。政策分野でいうと「しごとの強化」であると思う。今でこそ求人倍率が高くなってきているが、ミスマッチが起きていて就職に結びついていない現状がある。人手不足対策への施策が弱いように感じるので、今後検討していただきたい。ふるさとハローワークが隣の県庁舎1階にあり、市との共同運営となっている。市庁舎の近くにあるので他の部署も活用を考えていただければと思う。知名度がまだ低いように感じられるので、ホームページなどでPRしていただければと思う。

【尾間委員】

基本的には仕事ができなければ定着できないに尽きると思う。アメリカのギフトカード会社がカードのデザインをするのにデザイナーに提供した場所が牧場だった。テレワークの時代になってきており、志摩市はインターネット環境もあるので、空いている施設をクリエイターに貸し出す。逆に何も売らないことも売りとなる。こうした時に創業支援の補助金が生きてくる。

【畑野委員】

個別の施策が充実しているように感じる。また、全国29の都市に選ばれたSDGsの取組みを志摩市は始めている。経済の域内循環はここ5年で著しく落ちてきており、銀行としても廃業が増えないよう事業承継の支援に力を注いでいるが追い付いていないのが実状である。財源は非常に厳し

いと思うので、個別の事業をもう少し絞り込んで政策的に紐付けをしていくことである。ワーキングを設けるなどして個別の提案を議論するなどの方法もあると思う。

【舟戸委員】

大学生がスポーツで志摩市を利用してもらうような制度があればいいと思う。今年度、社会科の副読本の改訂の担当をしているが、その内容の中できんこについて調べており、きんこを使ったアイスクリームなどが流行ってきているとのことである。アカモクについては私自身もよく知らないもので、市民への魅力の発信が必要であると思う。高校の活性化については、地元の高校生が前に出てきていると感じている。人口減少が続けば早晚志摩市からなくなるとの話をしている。魅力のある高校にしてもらい通学させたくなるような取り組みが必要。

【内田委員】

「4-4 外国人観光客誘致推進事業」については、外国人観光客を受け入れる環境に関して補助金を設けているが、外国人目線でどこが足りないのかを事業者にアドバイスしたり、情報共有したりすることも有効でないかと思う。「4-7 御食国食文化展開事業」は、一次産業と観光業との連携が重要ではあるが、生産者自身から語るができ、情報発信ができるようになってくると観光にとっても重要な人材になってくると思う。「5-3 志摩市におけるガイド業の創出事業」については、設立した事業者に対して適切な助言などにより大切に育てていただきたい。

【齋藤副会長】

伊勢市の地方創生審議会に関わりがあり人口の推移に注視しているが、志摩市からの人口流入が非常に多い。伊勢市からも名古屋や北勢地域へ流出しているといった傾向がある。この審議会の目標として人口ビジョンがあり、いかに人口減少を食い止めていくかである。以前、某市の総合計画の策定委員をやっていたときに、地元高校の生徒が減ってきていて困っているのにもかかわらず、高校生の定住を優先し、市外の高校への通学費全額補助をやっていた。結果、地元高校に誰も行かず市外の高校に行ってしまったという施策の誤りがあった。奨学金の返還金について補助するなどは、呼び込みやすい施策であると思う。大学の方でも1つの事業所に就職することを前提に指導しているが、仕事を複数組み合わせた所得があってもいいと思う。例えば漁業者と観光ガイドなどをやっている方がモデルとしていると思う。南伊勢町の阿曾浦地区に外国人を受け入れられる民泊をされている方がいる。

【岩崎会長】

皆さんから貴重な意見や提案をいただいた。会議録にまとめて担当課に伝えてほしい。今すぐできるもの、検討し始めるのが重要なもの、アイデアとして温めていくものや、行政としては難しいが民間と連携してできることなど、仕訳をしながら検討いただければと思う。会議の時間については申し訳なく思う。この審議会については、条例により設置されているので運営の仕方について柔軟にはいかない部分もあるとは思うが、事務局と協議をしながら進めていきたい。

[議事終了]

事項書6. その他

[事務局からの事務連絡]

以上